意義ポイント
頭づくりペーパー

極秘
無期限
部の内
号

中曽根総理訪中の位置付け

６１年１０月２８日
外務省アジア局中国課

１．日中関係

(1) 昨年来、靖国参拝、教科書等種々の問題が生起したが、これらの問題は、双方の努力により鎮静化し、現時点における日中関係は総じて順調。しかし、戦争といった歴史があり、また体制の異なる日中間では今後も種々の問題が生じる可能性あり。

この時点において、首脳間での率直な意見交換を行い、日中友好を再確認することは極めて適切。また、これを日中両国民及び第三国に印象付けることは効果大。この点、日中青年交流センターの定礎式への総理の参加は象徴的意味あり。

(2) 中国の近代化は、我が国を含め西側諸国にとって有益。今次訪中の際、近代化に対する我が国の基本的な協力姿勢を改めて明らかにすることにより、近代化を最優先課題とする中国指導部を支援することとなる。

一方、経済関係が拡大するに伴い問題が生じることは当然。近代化に協力するとの基本姿勢を示しつつ、中国側における問題点は問題点として率直に指摘し、意見交換を行うことが適当。このことが長期的にみれば、健全な中国の近代化をもたらす所以。

２．対ソ関係

ゴルヴァチョフ政権の下、ソ連は対米ポジションの強化を念頭に、我が国、中国を中心としたアジア諸国に対するソフト・アプローチを展開。かかるソ連のソフト・アプローチには幻想を抱くべきではなく、この点は中国も十分認識。

かかる状況の下で良好な日中関係の確立を明確にし、かつ、対ソ関係について日中間で意思疎通を図ることは、我が方の対ソ・ポジションを強化。また、同時にこれらは中国の対ソ・ポジションも強化することに通じる。

また、中国は近代化を進める上で、西側諸国との間のみならずソ連・東欧との経済交流促進に一定の積極的姿勢を示しているところ、中国の近代化に対する日本の基本的な協力姿勢は、中国の対ソ接近に対し、一定限度の抑制的効果をもとう。更に、中国の近代化の進捗、西側経済との緊密化は、ソ連の経済の遅れに対する焦りを増大し、西側との関係でソ連により現実的な姿勢をとらせる可能性あり。

3．対米関係

米国にとっての中国の最も重要な位置付けは、対ソ戦略上のもの。このためには、中国を出来る限り西側に引き付けておくことが肝要であり、良好な日中関係の維持は、米国として歓迎。

一方、米国は中国の市場にも強い関心。米国として中国の近代化とそれに対する日本の協力姿勢は歓迎しているが、中国の市場における日本のオーバー・プレゼンスには警戒。

4．対韓関係

韓国は、韓中関係の改善を切望しており、このために日本が役割を果してくれることを期待。今次訪中は先般の総理訪韓の際、韓国側から表明された希望をそれなりに果たすもの。

また、教科書問題にもみられるように、日中関係と日韓関係は種々「連動する」傾向あり、今次訪中による日中友好関係の発展・強化は日韓関係にも好影響あり。

内外記者会見における

中曽根総理の冒頭発言（暫定案）

一九八六年一一月九日

於　北京・人民大会堂

中国での日程をほぼ終了し、帰国の途に就く前に、私の所感を申し上げます。

一、このたびの中国訪問は、胡耀邦総書記の御招待により、二年半前の私の訪中の際私より提案し、胡総書記の御賛同を得て北京に建設されることとなった日中青年交流センターの定礎式に出席することを主たる目的とするものでありました。

昨日北京に到着したその脚で、私はにぎやかに行われた定礎式に臨み、胡総書記並びに多くの関係者の方々、青年男女諸君と共に、日中青年交流センター建設工事の順調な進展と速やか

秘
発表まで

な完成を祈りました。その際の御挨拶でも述べましたとおり、青年は人類進歩の原動力であります。このセンターを通じて日中両国の青年が相互理解を深め、二十一世紀に向けて永遠の日中友好の強固な基礎を固められるよう希望します。また私は、中国から今後五年間に新たに五百名の未来の国造りを担う青年をわが国にお招きする「日中青年の友情計画」を新たに発足させることを明らかに致しました。

二、私は昨日から今朝にかけて、胡耀邦総書記、鄧小平主任及び趙紫陽総理とそれぞれお会いし、旧交を暖めるとともに、日中両国が体制の違いを乗り越えて、二十一世紀に向かって、日中共同声明、日中平和友好条約、日中関係四原則に則り、平和友好関係を一層強固なものとするべく両国の間の友情と信頼を再確認致しました。

また中国の指導者の方々は、中国が現在進めている近代化政策、対外開放政策を堅持していくことを明言されました。これに対し私は、中国のかかる政策を支持し、出来る限りの協力をしていく旨をお伝えしました。なお今回の訪中の主な目的が右に述べたとおりであることもあ

り、経済協力等の新規かつ具体的な案件については、既に申し上げたもの以外、特に言及すべきものはありません。

中国指導者の方々との間では、更に、現下の国際情勢についても意見交換を行いました。

三、最後に今次の訪問を愉快で意義深いものにしていただいた中国関係者の方々に、心からの感謝の意を表したいと思います。

中曽根訪中の意義・ポイント

61年10月15日
中　国　課

1.訪中の意義

（１）中曽根総理は、11月８～９日、日中青年交流センターの定礎式出席のため訪中する。右を機会に、次代を担う両国青年の交流の重要性を強調し、将来にわたる日中関係の強化を図る。

（２）日中関係は、83年11月の胡耀邦総書記の訪日、84年３月の中曽根総理の訪中を経て、首脳個人間の信頼関係が築かれるとともに、経済交流、青年文化交流等の分野においても急速に緊密の度合いを深めている。

体制の異なる日中両国間には種々の問題・摩擦も生起しうるが、それにより動揺することのない強固な日中関係を築くためには、特に両国の青年が日中関係の重要性を十分認識し、両国関係の発展のため努力していくことが肝要である。日中青年交流センターは次代を担う両国青年が種々の交流を通じて、互いの国情を理解し、友情をはぐくむことを目的とするものであり、その定礎式に総理が出席することは、両国首脳間で日中関係の重要性を再確認し、その基礎を将来に向けて一層揺るぎないものとするにふさわしい機会である。

２．訪中にあたってのポイント

（１）将来にわたって揺るぎない日中関係確立のための努力

（イ）中国側首脳との会談において、日中の将来について胸襟を開いて意見交換を行い、首脳間の相互信頼関係の強化をはかる。

（ロ）青年交流の拡充

青年交流は相互理解、相互信頼の基礎であることに鑑み、今後とも右拡充に努力する。

（２）経済交流進展のための努力

我が国が引き続き中国の近代化のために協力していくことを再確認するとともに、我が国が進めている経済構造調整と中国が実施中の改革は、両国の新たな経済交流の契機となり得ることを指摘し、日中貿易の拡大均衡、投資促進等につき、双方が引き続き努力していくことを確認する。

（３）国際情勢

日中関係が国際関係に占める重要性に鑑み、首脳間で朝鮮半島情勢、首脳会談後の米ソ関係、中ソ関係等を含む最近の国際情勢に関し、意見を交換する。

極秘
無期限
部の内
号

中曽根総理訪中
（頭づくりペーパー）

61.10.6
中国課

Ⅰ．ロジ
（１）日程
（イ）11月８日（土）及び９日（日）の一泊であれば、国会にあまり影響なし。
（ロ）特別機を日航とするか全日空とするか。
（ハ）とりあえず次の日程が考えられる。
８日午後　羽田発　北京着
夜　中国側主催晩餐
９日午前　青年交流センター定礎式
鄧、胡、趙各首脳との会談
昼　答礼宴
午後　北京発帰国

（注）外務大臣同行は特に考慮の要なし

（２）同行者
外務審議官、アジア局長、経済協力局長、
無償資金協力課長、報道課長、中国課長、
官房副長官、総理秘書官
国会議員
２１世紀委員会委員
各省（大蔵、農林、通産、経企、警察）（但し警察を除き、本来同行は必要ない）

Ⅱ．サブスタンス（訪中の目的）
（１）青年交流センター定礎式出席
（イ）10月下旬までに交換公文（その他諸手続きは経済協力局主管）
（ロ）中曽根・胡両首脳の揮毫の文字選定（日程の中に揮毫行事を入れても可）
（２）日中友好関係の維持、発展と中国の近代化政策への協力を再確認
（イ）靖国、教科書、藤尾発言等、一連の諸問題については、然るべく発言乃至応答
（ロ）日中貿易
拡大均衡をはかるよう双方の努力を必要とすることを確認。
……中国側は、わが方の輸入制限等の撤廃を要請越しているところ、訪中前にも日中混合委や生糸・絹織物協議の開催が決定していることが望ましい（政府間で話合いが続けられているとの雰囲気作りを図る）。
（ハ）対中投資
投資環境の整備・改善につき一般的な申し入れをすることが考えられる。
他方、投資保護協定交渉についてあらためてわが方立場を洗い直してみる必要あり。
（ニ）青年交流
「21世紀の友情計画」の下での５年間で500人の中国青年招聘計画を打ち出す。
（３）国際情勢についての意見交換
特に対ソ関係、朝鮮半島情勢

発表ポリ
プレス

中曽根総理大臣の訪中について

昭和六十一年十一月四日

中曽根総理大臣は、胡耀邦中国共産党総書記の招きに応じ、日中青年交流センター定礎式に出席するため、十一月八日及び九日の両日にわたり、中国を訪問される。

中曽根総理大臣は、中国滞在中、胡耀邦総書記をはじめとする中国側指導者と会談の予定である。

中曽根総理大臣の中国訪問には、渡辺官房副長官ほかが同行する。

中曽根総理の中国御訪問日程

十一月八日（土）

午前　羽田発

午後　北京着

夕　日中青年交流センター定礎式

胡耀邦総書記との会見

胡耀邦総書記主催歓迎宴

十一月九日（日）

午前　人民英雄記念碑献花

趙紫陽総理との会見

鄧小平主任との会見

内外記者会見

昼　趙紫陽総理主催昼食会

午後　北京発

羽田着

秘
発表まで

中曽根総理大臣の訪中について（官房長官記者会見御発言要領）

六十一・十・十四
中国課

中曽根総理大臣は、胡耀邦総書記の招待に応じ、北京において行われる日中青年交流センター定礎式に出席のため、十一月八日及び九日の両日にわたり、中華人民共和国を訪問する。

具体的な日程については、今後中国側と詰めていくこととなる。

総理訪中（対外応答要領）

六十一年十月十四日
中国課

問一、中曽根総理訪中日程については、いつ中国側より通報があったのか。

答、今般、中国側より（十一月八日及び九日の両日にわたる訪中を歓迎する旨の）通報を受け、速やかに発表した次第である。

（更に、具体的にいつかと問われる場合）

答、通報を受けたのは、昨夜である。

秘 発表まで

問二、今次総理訪中は公式訪問か、それとも非公式訪問となるのか。

答、公式か、非公式かということでなく、あくまで日中青年交流センター定礎式出席のため胡耀邦総書記の招請に応じ訪中するということである。

問三、今次訪中では、定礎式はいつか。また、中国側要人の誰と会見することになっているのか。

答、現在のところ、未定であり、今後中国側と詰めていくこととなる。

中曽根総理の訪中歴等

61.10.13
中 国 課

1．中曽根総理訪中歴

(1) 1954年７月25日～８月４日
衆議院議員。
李徳全紅十字会会長、郭末若中国人民保衛世界和平委主席と会見。

(2) 1973年１月17日～１月21日
通産大臣。
周恩来総理、姫鵬飛外交部長、李強対外貿易部長代理、廖承志中日友好協会会長と会見。

(3) 1980年４月27日～５月９日
衆議院議員（前自民党幹事長）。
華国鋒総理、李強対外経済貿易部長、伍修権副総参謀長、張香山中日友好協会副会長と会見。

(4) 1984年３月23日～３月26日
総理大臣。
鄧小平主任、胡耀邦総書記、趙紫陽総理、彭真全人代常務委員長、鄧穎超政治協商会議主席と会見。

2．歴代総理の訪中

(1) 田中総理 （1972年９月25日～９月30日）

(2) 大平総理 （1979年12月５日～12月９日）

(3) 鈴木総理 （1982年９月26日～10月１日）

(4) 中曽根総理 （1984年３月23日～３月26日）
総理として２度訪中するのは中曽根総理のみである。